

事後評価報告書

1. 研究課題名：

マクロファージにおけるアテローム性動脈硬化症関連遺伝子ネットワークの解析

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：理化学研究所 鈴木 治和

2-2. 瑞国側研究代表者：リンコピン大学 Jesper Tegner

総合評価： 優

3. 研究交流実施内容及び成果：

相互の長所を相補的に生かした研究材料・知識手法の交換による共同研究が順調に行われた。

アテローム性動脈硬化症関連遺伝子の同定とその機能解析の目的はまだ達成されていないが、研究成果として、転写制御ネットワークの新たな解析パイプラインの構築に成功するなど (Nature Genetics 41(5):553-62, 2009) 画期的な科学技術の進展には貢献したと評価できる。

4. 事後評価結果：

4-1. 総合評価

THP-1 細胞がアテローム性動脈硬化症におけるフォーム細胞のモデルになりうることの成果で遺伝子ネットワーク解析による新しい手法が確立され今後の研究進展が期待される。

4-2. 研究交流の有効性

相互派遣、ワークショップ開催は想定通りなされた様であるが、研究交流および人材育成について、若手研究者にも交流の機会を与えて本分野での人材育成やネットワーク強化につながる取り組みをもう少し行って頂きたかった。

4-3. 当初目標の達成度

以前からの包括的な共同研究協定があって、この体制は更に強化され発展する可能性がある。

両チームがおのおの実験科学と計算科学チームを担当し相補的で強力な研究実施体制を組んでの共同研究であり、相互の長所を相補的に生かした研究材料・知識手法の交換による共同研究が順調に行われた。研究途中で計画の一部修正がなされたがこれは次世代シーケンサーへの適応のためであった。ただし表題の研究目標の達成にはまだ時間がかかるように見受けられた。